

《技術報告》

1 ルート法で行ったアデノシン負荷心筋シンチグラフィの安全性

河合 裕子* 木住野 皓**

要旨 片側上肢に1ヶ所だけの血管確保(以後1ルート法)を用いてアデノシンによる負荷心筋シンチグラフィを施行した。アデノシン投与期間中および心筋血流製剤投与直後の自覚症状、収縮期血圧、拡張期血圧および心拍数への影響を検討する。

狭心症が疑われる患者66名(男性43例, 68 ± 11 歳)に対して, 1ルート法により, アデノシン $120 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ を6分間持続静脈内投与することによる負荷心筋シンチグラフィを施行した。

アデノシン持続投与中に同一ルートから心筋血流製剤を注入したが, これによる収縮期血圧, 拡張期血圧および心拍数には有意な変化はなかった。アデノシン投与開始直後に全症例の64%, 心筋血流製剤投与直後に8%で新たな所見が出現したが, いずれも軽度であり, 投与終了後速やかに消失した。

以上より, 1ルート法を用いたアデノシン負荷心筋シンチグラフィは安全であり, 両側上肢に血管確保することが困難な症例に対して有用と考えられた。

(核医学 43: 15-21, 2006)